



食玩
コレクター

食玩コレクターになった切っ掛け



2001年元旦、車で1時間ほどの里からの帰り、何気なく寄った国道沿いのコンビニでモロボシ・ダンが載った箱を発見。手に取ると300円と手頃な値段。レジで清算中の妻の買い物カゴの中にヒョイと混ぜた。妻は、こんなもの買うのかと「これ買うの〜！」私は背中を丸めてそそくさと車に向かった。

家に着いて自分の部屋で箱を開け組立てる。まず驚いた。顔まで似ているフィギュアとしての出来の良さ。まるでモロボシ・ダンが手のひらサイズになって机の上に居るかんじ。「素晴らしいな〜！」10センチの近距離でしばらく眺めていた。何となく、たくさん持っていたい衝動に駆られて来た。次の日からコンビニ回りが始まった。モロボシ・ダンは1カートンに1個しか入ってない。ということは一軒に1個しかない。買われてなければの話だが。だから見付けるのに苦労した。しかし何とか10個ほど手に入れた。当時、我が家の10キロ圏内からモロボシ・ダンは消えたことになる。

何故それほどモロボシ・ダンに執着するかと言えば、もちろん子供の頃にウルトラセブンをリアルタイムで見ているセブンを愛好し憧れているからだ。特にダンとアンヌには淡い恋心を抱いている。もし、コンビニの棚に有ったのがモロボシ・ダンでなかったら食玩・Candy Toyのコレクターには成って無かっただろう。

その後、ダンの横にセブンを置きたいと思いメーカーのホーム・ページを見ると、前シリーズの中にあった。そのシリーズは半年前の発売で既に市場から消えていた。それで仕方なく諦めていたのだが、里の母が体調を悪くし入院したと言うので見舞いに行ったのだが、病院は郡部の田舎にあった。

母の病院に行く道中、妻が果物でも買って行こうと言うのでスーパーに寄った。妻が果物を物色している間に私は玩具菓子のコーナーの棚を眺めた。すると驚いたことにセブンでは無いが赤いパッケージのウルトラマンがあった。1個だけ箱の角が潰れて寝っころがっていた。セブンがないかと棚をくまなく探したが無かった。仕方なくウルトラマンを手にしてレジに向かった。それからというもの、田舎のスーパーを回ってはCandy Toyを探した。その内、前シリーズの全てを手に入れることになる。もちろんセブンも。



そうこうしている間に他のキャラクターにも目が止まり仮面ライダーを集めだす。ライダーマシンのアマゾンなかなか良い。ストロンガーが欲しくなる。また田舎のスーパーを探す。有った！。握り拳でガッツポーズ。てなわけで今に至っている。だからコレクター歴4ヶ月くらいでまだまだ素人に近いのだ。

インターネットで検索するとかなりのコレクター歴をお持ちの先輩たちが沢山いらっしゃるのを知る。私もコレクションを写真に撮りホーム・ページを作りたいと思った。パソコン1年生の私がホームページを作る

のだ。無謀なことだが仲間に入れてください。お手柔らかにお願いします。

2001年4月18日

塗装を施す



食玩を楽しむ方法として、リペイントしてフィギュアのスキルを上げるのも面白い。食玩の魅力は何と言っても安価であること。そのためメーカーで安価にするため整形色のまま、未塗装にしているところがある。ダンの場合、手袋・ブーツ・腰の銃・腕のレシーバーに塗装が施されてなかった(写真左)。それに我流だがプラモデル屋さんでカラーペイントを買って来て細い筆で塗ってみる。写真右、どうだ。すごく良くなった。これで300円だから安い。もともとお菓子のおまけだから値段は無しに等しい。しかし、実際はフィギュアに小さなガムが一個付いているぐらいで

、お菓子がおまけ状態なので、フィギュアの値段が300円なのだ。それでも安い。その安さが食玩の魅力なのだ。それがコレクターズアイテムになる由縁なのだ。高ければ玩具としていくらでもクオリティーの高いものはある。しかし、食玩コレクターにはそんなもの何の意味もないのだ。この値段でこのクオリティーの高さ。それが食玩の魅力なのだ。

ザ・仮面ライダー



私が食玩コレクターになったのはモロボシ・ダンを見つけた2001年からです。そして本格的にコレクターになった切っ掛けはこのフィギュアを知ってからです。ザ・仮面ライダー。この作品は1998年に発売になっていたものです。ですから既に市場にはありませんでした。わたしが市場で目にしたのはシリーズ3作品目のクウガがメインのラインナップになったものですが、この作品がフィギュアとして出来が良かったので感心していたのですが、何にせ昭和の育ちですから平成ライダーより昭和ライダーの方が良い。それでメーカーのホームページで確認するとシリーズの最初の物で、初代～V3までの4体がラインナップになったものがあったのです。これは是非欲しいなと思いましたが、ショップにもないし、ネットショップにもソールド

アウトでした。仕方なく個人のコレクション先輩のホームページを見ると有料で譲ってくれるようになっている。大よそ原価の三倍でしたが、購入させていただくことにしました。そのようにして手に入れた食玩、ザ・仮面ライダー。

今ではとても考えられないほどの手の込みようになっているフィギュア。目は透明で内部に色彩シールを貼る様になっていて、メットは着脱式。スカーフも分離された単品をほんとはスカーフのように巻き付けるようになっていて、手作り間がいっぱい。これ凄いな～です。これで300円、感動でした。

ザ・ライダーマシン

次に目に付いたのは前出しましたがザ・ライダーマシンです。1ページに載せていますが、アマゾンがバイクに乗ったやつです。ライダーとバイクがセットになっています。これも300円。安いです。これはバイクが細かくキットになっていて組み立てる楽しみがあります。タイヤも前輪・後輪が回転しますし、プラモデル感があります。ただ、小さなバイクスタンドだけで立ってますから安定感がなく、少しの揺れで倒れてしまいます。それでもシリーズ物をずらりと並べて眺めると格好いいです。私がスーパーで見付けたのはアマゾンがあるシリーズの第2弾、ザ・ライダーマシン2でした。

そのラインナップのクウガマシン・Xマシン・アマゾンマシン・ストロンガーマシンは何とか田舎のスーパーを回って見付けました。しかし、ザ・ライダーマシン1はネットショップで買いました。これです。



上に乗っている仮面ライダーは完成品で全塗装されています。下のバイクは組立後にシールを貼ります。風防や車輪のホイールはスケルトンでタイヤは独立したゴムです。バイク本体はプラスチック製でほんと、プラモデルです。このシリーズは5まで出ましたが、だんだんスケール自体が小さくなり、ブレイドマシンになって一段と小さくなり、タイヤなど一体のプラスチックになってしまいフィギュアのスキルが落ちてしまいました。前出のダンの入ったハイパーウルトラマンシリーズやザ・仮面ライダーシリーズもシリーズ後半になるとスケールが小さくなり、部品が合体された物に略されていきます。それは価格を安く据え置くために仕方なく施された苦肉の策なのでしょうから仕方ない。しかし、それが食玩のブームを衰退させて行った原因だと思います。2010年の現代ではこのシリーズの系統の品は450円～550円になっています。これはもう食玩と呼べる価格ではありません。コレクターが減って行った一番の原因はこれでしょう。もう一度、安くていい物を作る。に立ち戻ってやって欲しいものだと思います。

継続執筆中 (2010・7・26)